



きらきら Eye ランド

令和6年7月10日

グリーンプロジェクト情報 **緊急号**

J A 庄内みどり

発行: 庄内みどり農業協同組合

異常気象災害対策本部

協力: 酒田農業技術普及課

今年も平年よりも暑い予報！ 水管理とケイ酸資材で高温対策を！

仙台管区気象台の3カ月予報（6月25日発表）によると、今後3カ月の気温は平年よりも高くなる事が予想されております。下記の高温対策を参考に、対応いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

【出穂期～登熟期の水管理】

- 出穂期から穂揃い期（7日間程度）までは、開花・受精に十分な水分（花水）が必要となります。開花期は湛水状態で管理しましょう。
- 穂揃い期以降は「間断灌水」（2日湛水2日落水の繰り返し）を基本とし、土壌を酸化的に維持しながら適度に水分を供給してください。
- 高温の日中に圃場が湛水（深水）になっていると水温が上昇してしまい、稲体を休める夜間も水温が下がりにくくなります。この状態を避けるために、高温年次は『飽水管理（作溝に水を溜めておくこと。土中に十分な水分がある状態。）』に努め、水の溜めっぱなしを避けましょう。
- 出穂後30日間は玄米形成に最も重要な時期です。早期落水は登熟を妨げ、品質や収量低下の原因となりますので出穂後30日間は完全落水を避けましょう。
- 各土地改良区の割水の当番日は必ず守りましょう。

裏面もご覧ください。

【ケイ酸資材の散布】

- ケイ酸施用により気孔の開放度が高まり蒸散作用で稲体温度を低下させ、光合成の維持により登熟の向上が期待できます。これらの点で高温対策に有効な資材とされています。
- 本来、ケイ酸は幼穂形成期以降に吸収が急増することから、ケイ酸資材は幼穂形成期以前に散布する事が重要です。未施用の圃場では上記効果を得るため、積極的にケイ酸資材を施用しましょう。これからの時期でも効果の見込めるケイ酸資材の中では「農力アップ」(20～40kg/10a)がおすすめです。極力早めに散布し、遅くとも出穂前までには終わるようにしましょう。

【病害虫対策】

斑点米カメムシ類発生 注意報発令中！！

- 山形県病害虫防除所から7月2日に斑点米カメムシ類発生予察注意報が発令されました。6月後半から斑点米カメムシが増加しており、今後1か月の気温が高いと予想されていることから、水田内への飛来、加害が活発になると懸念されています。
- 無人ヘリ防除を委託されていない圃場では、地域の無人ヘリ防除時期に合わせて適切な薬剤防除に努めましょう。
- 圃場周辺の草刈りは8月上旬の無人ヘリ防除前までに刈り終わるようにし、8月末までは草刈りを休止しましょう。なお、「こまめな草刈り(雑草が穂をつける前に刈り取る事)」も効果がありますので、日頃から徹底しましょう。
- 上記にあわせて、圃場内の雑草(ヒエ、ホタルイ等)の除去が重要です。アカスジカスミカメはこれらの雑草の穂に産卵するので、除去した雑草は圃場周辺に放置しないようにしましょう。
- カメムシ対策は地域ぐるみ、面的な対策が重要です。地域でよく話し合い、協力しながら実施するようにしましょう。